

あいちイクメン応援企業賞 受賞企業の取組紹介

株式会社トヨタコミュニケーションシステム
名古屋市東区/サービス業/従業員数 1,197名



男性も女性も、希望する社員が
100%制度利用できることを目指し、
環境整備に取り組む

取組内容

- 男性従業員向けの育児支援制度の一覧表を作成
- 育児の日と定めた毎月19日に、定時退社を呼びかけ、同時に育児支援制度一覧表をメール送信するなど継続的な周知を実施
- 育児短時間勤務者にも責任ある仕事を任せる
通常勤務者がペアで業務を担当することで、急な休みや繁忙期に対応できる体制を整備
- 育児支援制度利用者を支える人を評価する仕組みを実現

効果

- 自発的に制度を利用する男性従業員の増加
- 1~2か月程度の男性の育児休業取得者が毎年出現
- 安心して制度を利用できる職場環境を実現

株式会社TBエンジニアリング

豊田市/専門・技術サービス業/従業員数 193名



社員が能力を十分発揮しつつ、
安心して子育てができる
働きやすい環境整備に取り組む

取組内容

- イクメン応援に関する数値目標(配偶者出産休暇の取得率100%)を設定
- 社長と従業員代表による職場改善検討会を開催し、従業員のニーズを把握し制度改正につなげる
- 毎月部署ごとに業務の負荷調整を行うことで残業を減らし、休暇を取得しやすい環境づくりに努める
- 各事業所に人事担当者が週1回出向き、休暇取得等の出張相談を実施

効果

- 配偶者出産休暇取得率100%を達成(配偶者出産休暇を取得せず育児休業を取得した場合を含む)
- 従業員の意見を取り入れて制度改正を実施
- 10か月間を始めとして長期間の男性の育児休業取得者が出現
- 育児支援制度の利用等について気軽に相談



あいちイクメン応援会議については
「あいちイクメン応援サイト」でも紹介しています
<http://famifure.pref.aichi.jp/ikumen/>

あいち イクメン応援会議

開催レポート2014



イクメン・イクボス応援企業 5つの心得

心得
その1

**イクメンが活躍する企業は、
男女誰もが働きやすい企業です!**

男女を問わず、育児や介護を担う従業員は増えています。育児等に積極的な男性“イクメン”が活躍する企業は、お互いに支え合うことができる職場環境を実現しています。

心得
その2

イクメンが女性の活躍を支えます!

女性が育児や家事の多くを担っている現状では、職場での女性の活躍は大きく制限されます。イクメンが増えれば、女性が生き生きと働きやすくなります。

心得
その3

イクボスが職場を活性化します!

部下のワーク・ライフ・バランスを考え、彼(彼女)のキャリアと人生を応援しながら、組織として成果を挙げられる管理職(上司)“イクボス”が、イクメンや女性が活躍するための鍵となります。イクボスを育てましょう。

心得
その4

**ワーク・ライフ・バランスは、
重要な経営戦略のひとつです!**

イクメン・イクボスを応援し、従業員のワーク・ライフ・バランスを進めることで、仕事への意欲や効率性が高まり、生産性が向上します。さらに、能力と経験のある従業員の定着が図られ、企業の持続的な発展の原動力となります。

心得
その5

**トップからのメッセージを
従業員に届けましょう!**

イクメン・イクボスの活躍を推進するためには、経営者の理解・姿勢を明確に示すことが不可欠です。トップからのメッセージを一人ひとりに届けることにより、従業員の安心、やる気につながります。



あいちイクメン応援会議開催レポート2014の作成にあたって

愛知県では、平成26年8月に、労働団体、経済団体、企業、有識者等を構成員とした「あいちイクメン応援会議」を設置し、育児等を積極的に行う男性(イクメン)を増やし、応援する社会づくりに取り組んでいます。これまでに、イクメン川柳の募集、イクメン応援キャンペーンの実施、あいちイクメン応援企業賞の新設など、イクメンを応援する様々な事業を実施してまいりました。本レポートではその結果をご紹介します。今後も、イクメンが活躍し、男女がともに仕事と子育てを両立できる環境づくりが進むように、地域社会全体でイクメンを応援する気運の醸成を図り、「人が輝く愛知づくり」をめざしてまいります。



愛知県知事 大村秀孝



あいちイクメン応援会議
ロゴマーク



【あいちイクメン応援会議 委員紹介】(平成27年1月8日現在)
名古屋大学 大学院法学研究科 教授 田村 哲樹氏/NPO法人ファザーリング・ジャパン 理事、社会保険労務士 横井 寿史氏/日本労働組合総連合会愛知県連合会 広報・教育局長 加藤 夕紀氏/愛知県経営者協会 会員サービスグループ部長 東村 誠氏/中部ダイバーシティNet幹事企業、中部電力株式会社 多様な人財活躍支援室 女性活躍支援チーム長 山口 房江氏/愛知中小企業家同友会 理事、有限会社ソフィア企画 代表取締役 石塚 智子氏/愛知県産業労働部労政局 就業推進監 林 清功氏

第1回会議(平成26年8月1日開催)で話し合われたこと

労働者だけがイクメンになりたいと思っても難しい。それを支える管理職の存在が大事であり、いわゆる「イクボス」に焦点をあてた取組が必要。

啓発だけでなく、直接男性に対して「育児に関わろうよ」と促すセミナーを開催してはどうか。

子どもが生まれた瞬間だけでなく、その後長く続く子育て期の働き方、育児・家事への関わり方もみていくべき。

中小企業経営者も、女性活躍への意識は高くなってきているので、それを支えるイクメンについても理解してもらえよう、工夫して働きかけることが必要。

男性が育児にしっかりと関わっていくこと、働き方を変えることで、女性も働きやすくなる。

第2回会議(平成26年10月2日開催)で話し合われたこと

あいちイクメン応援企業賞に関して

企業におけるイクメン応援の取組は、制度の整備だけでなく社員に対してどういった啓発をしているかを見ることも必要。

直接イクメンを応援する取組でなくても、「柔軟な働き方」や「効率的な働き方」など、結果として男性社員の家事、育児参画につながる取組をしていけば評価できる。

イクメンについての県政世論調査結果について

「男性の育児参加をどう思うか」という設問については、年代差が大きく、若者の方が「(育児に)積極的に参加すべきだ」と思っている率が高い。「積極的に」とまでは思っていない、少し上の管理職世代(40歳代以上)の意識を変える必要がある。

イクメンに関して

女性に真の活躍を求めるなら、イクメンを支援し、男性の働き方や育児等への関わり方を変えていくということに真面目に取り組まないといけない。

企業としては、子育てしながらも、仕事をおろそかにしない、仕事ができるイクメンであってほしい。

「仕事をおろそかにしない」ことを強調しすぎると、特に男性は「仕事に支障のない範囲での家事・育児参加」になりやすく、結局、負担が女性にかかってくることになる。充実した人生を送るためには、男女を問わず、状況に応じて「仕事を調整して育児等ができる」環境を目標とし、段階を踏んで取組を進めていった方がよいのではないかと。

第3回会議(平成27年1月8日開催)で話し合われたこと

あいちイクメン応援企業賞の選考にあたっては、制度的な環境整備も重要だが、経営者や上司の理解、制度が活用しやすい仕組みや職場の雰囲気づくりへの取組が大切。

男性本人を始め、企業や県民に専用サイトなど様々なツールで情報発信をして、イクメンを応援する社会的気運の醸成を図っていくことが大切。

2月に経営者等を対象としたトップセミナーを開催することもあり、本会議として、企業(経営者)側に「5つの心得」などと銘打って象徴的なメッセージを送ってはどうか。

今回決定した本会議のロゴマークを活用して、より一層の啓発に取り組むべき。

★イクメン川柳の募集

県内在住者又は在勤・在学者を対象に、イクメンを題材とした川柳を募集

- 募集期間/平成26年7月28日[月]~8月25日[月]
- 応募総数/423作品
- あいちイクメン応援会議委員の審査により最優秀賞、優秀賞、佳作を選定

最優秀賞 「へんてこな パパのおにぎり ボクは好き」 安形 よしゑさん

優秀賞 「イクメンを 育てています 誉め言葉」 恵利 菊江さん

佳作 「イクメンの 胸にスヤスヤ 抱っこ紐」 住田 勢津子さん



★イクメン応援キャンペーン

11月を「イクメン応援キャンペーン」月間として、街頭啓発活動等を実施

1. 啓発ポスターの作成、掲示

- あいちイクメン応援会議委員により、イクメン川柳最優秀作品を使用した啓発ポスターを選考
- 市町村、愛知県ファミリー・フレンドリー企業へポスター掲示を依頼
- 金山駅でポスターを掲示(11月20日[木]~24日[月])

2. 街頭啓発活動の実施

- 啓発資料及びグッズ(クレヨン)を配布し、イクメン普及を呼びかけ

〈実施時期〉11月8日[土] 愛・地球博記念公園(モリコロパーク)、愛知勤労者スポーツ大会会場内

11月19日[水] 県内主要駅6ヶ所(①金山総合駅、②名鉄一宮駅、③名鉄津島駅、④JR豊橋駅、⑤名鉄知多半田駅、⑥名鉄東岡崎駅)

8:00~8:30 ※県内一斉ノーマルデー啓発と同時実施

11月29日[土] イオンモールナゴヤドーム前店、1F催事場にて親子お絵かきコーナー実施

